

万華鏡

甲府商業高校 図書室
令和5年6月
NO. 2

こんにちは。

1年生は新しい環境にはもう慣れましたか？

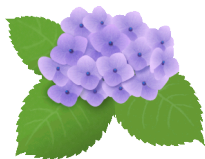
5月は総体、第1回定期試験が終わり、ほっとしている人も多いのではないのでしょうか。

天気が良くない時は図書室でのんびり本を読むのも良いものですよ。

1年生もオリエンテーション以降にまだ図書室へ来ていない生徒はぜひ

この機会に一度足を運んでみてください。

お待ちしております☆



新着本紹介

『汝、星のごとく』

凧良ゆう／著 講談社

書籍紹介：2023年 本屋大賞

瀬戸内の島に育った高校生の暁海と、自由奔放な母の恋愛に振り回され島に転校してきた權。ともに心に孤独と欠落を抱えた二人は、惹かれ合い、すれ違い、そして成長していく。生きることの自由さと不自由さを描き続けてきた著者が紡ぐ、ひとつではない愛の物語。

『光のどこにいてね』

一穂ミチ／著 文藝春秋

書籍紹介：古びた団地の片隅で、彼女と出会った。彼女と私は、なにもかもが違った。

着るものも食べるものも住む世界も。でもなぜか、彼女が笑うと、私も笑顔になれた。彼女が泣くと、私も悲しくなった。彼女に惹かれたその日から、残酷な現実も平気に思えた。ずっと一緒にはいられないと分かっているながら、一瞬の幸せが、永遠となることを祈った。

『爆弾』

呉勝浩／著 講談社

書籍紹介：些細な傷害事件で、とぼけた見た目の中年男が野方署に連行された。

たかが酔っ払いと見くびる警察だが、男は取調べの最中「十時に秋葉原で爆発がある」と予告する。直後、秋葉原の廃ビルが爆発。まさか、この男“本物”か。さらに男はあっけらかんと告げる。「ここから三度、次は一時間後に爆発します」。警察は爆発を止めることができるのか。爆弾魔の悪意に戦慄する、ノンストップ・ミステリー。

『月の立つ林で』

青山美智子／著 ポプラ社

書籍紹介：元看護師、芸人、二輪自動車整備士、女子高生、アクセサリ作家。つまずいてばかりの日常の中、それぞれが耳にしたのは、タケトリ・オキナという男性のポッドキャスト「ツキない話」だった。月に関する語りに心を寄せながら、彼ら自身も彼らの思いも満ち欠けを繰り返し、新しくてかけがえのない毎日を紡いでいく――。

『方舟』

夕木春央／著 講談社

書籍紹介：大学時代の友達と従兄と一緒に山奥の地下建築を訪れた柁一は、偶然出会った三人家族とともに地下建築の中で夜を越すことになった。翌日の明け方、地震が発生し、扉が岩でふさがれた。さらに地盤に異変が起き、水が流入しはじめた。いずれ地下建築は水没する。そんな矢先に殺人が起こった。だれか一人を犠牲にすれば脱出できる。生贄には、その犯人がなるべきだ。一犯人以外の全員が、そう思った。

『川のほとりに立つ者は』

寺地はるな／著 双葉社

書籍紹介：カフェの若き店長・原田清瀬は、ある日、恋人の松木が怪我をして意識が戻らないと病院から連絡を受ける。松木の部屋を訪れた清瀬は、彼が隠していたノートを見つけたことで、恋人が自分に隠していた秘密を少しずつ知ることになり――。「当たり前」に埋もれた声を丁寧に紡ぎ、他者と交わる痛みとその先の希望を描いた物語。

- ★『ケチる貴方』 石田夏穂著 講談社
- ★『あなたはここにいないとも』 町田そのこ著 新潮社
- ★『君に光射す』 小野寺史宜著 双葉社
- ★『魔女と過ごした七日間』 東野圭吾著 KADOKAWA
- ★『黄色い家』 川上未映子著 中央公論新社
- ★『人生百年時代の歩き方』 五木寛之著 NHK出版
- ★『ゴリラ裁判の日』 須藤古都雄著 講談社
- ★『ものがわかるということ』 養老猛司著 祥伝社
- ★『日本史を暴く』 磯田道史著 中央公論新社
- ★『成瀬は天下を取りに行く』 宮島未奈著 新潮社
- ★『くもをさがす』 西加奈子著 河出書房新社
- ★『名探偵のままでいて』 小西マサテル著 宝島社
- ★『日本史を暴く』 磯田道史著 中央公論新社
- ★『文豪たちの怪談ライブ』 東雅夫著 筑摩書房
- ★『やさしさを忘れぬうちに』 川口俊和著 サンマーク出版 など

★ 昨年度、皆さんから要望がありました**汐見夏衛**作品を多数揃えました。ぜひ、図書室に来てみてくださいね。